

# 登山月報



シニオルチュー(6887m)



**8月11日** みんなで山を考えよう!  
 祝「山の日」  
 全国「山の日」協議会  
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.590

日本ユース選手権リード競技大会印西 2018 .....	2
第12回山岳スキー競技日本選手権大会報告 .....	5
第114回 Mountain World .....	7
ふるさとの山紹介 .....	8
「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2018」報告 .....	9
2018年U I A A 理事会報告 .....	11
JMSCA、寄贈図書、編集後記 .....	12

# 日本ユース選手権リード競技大会印西 2018

会場：千葉県印西市松山下公園総合体育館

期日：2018年 3月24日（土） 予選1日目

3月25日（日） 予選2日目

3月26日（月） 決勝

「日本ユース選手権リード競技大会」は1997年に「学生選手権」としてスタートした大会が、その出発点となる。国内の若手選手の強化を目的として開催された第1回大会は、男子40名、女子4名の参加という小規模な大会としてスタートした。



その後、大学生まで出場可能だった年齢制限を、国際大会のユース基準に合わせ開催されるようになり、2009年から男女ともにジュニアからユースCまでカテゴリーのある現在と同じ形式の大会となり、今大会では男女合わせて260名を超える大規模な大会へと成長した。

参加人数の拡大とともに競技時間が膨らみ、今年の大会より従来の2日間から3日間開催へと変更された。これにより大会の準備全体を通して余裕ができ、大会の質の向上と安全性への配慮が高まったと感じたが、数人の選手の父兄やスタッフからは年度末の時期に3日間時間を確保することへの難しさに対する声も上がっていた。



予選は男女ともにユースCからジュニアまで全カテゴリーで同じルートで競技がおこなわれた。開始早々女子ユースCの森奈央が右ルートを完登し、易しめのルート設定かと思われたが全カテゴリーでの完登者は5名、左ルートの完登は0名と実力がないと結果を出せない展開となった。

男子はジュニアカテゴリーにワールドカップでも結果を出している実力者が揃う。左右どちらのルートも完登者が数名出たが、ジュニア以外のカテゴリーでは川又玲瑛の1名のみと地力の差がはっきりと出た展開となった。とはいえ出場した選手にとっては各々が目指すべきレベルを明確に認識できる予選内容であったとも言えるだろう。

最終日に行われた決勝はユースCからはじまった。女子は下部から消耗するルートで、傾斜がきつくなった後のガストピンチを保持し高い位置に足を上げる核心部（19手）で落ちる選手が続出した。そのような中、先日の日本選手権リード競技大会で決勝に進出し周囲を驚かせた小池はなが軽々と核心を突破し26手まで高度を伸ばし優勝した。

男子ユースCは中間部のスローパーでの切り返し（28手）が最初の核心。デリケートなムーブが続く中で身体のポジショニングが問われるルートだった。ユースCではこの部分を突破したのが谷井和季と小俣史温の2選手となり、両選手共39手まで到達しカウントバックで小俣史温が優勝を決めた。

ユースB女子は昨年の世界ユースでも活躍した谷井菜月が圧巻の登り。最上部までテンポの良い安定したクライミングで進み、最上部のホールドもスタティックに掴み取り完登を決めた。完登は全カテゴリー中ただ1人となったため、総合でも最高高度となる優勝となった。

男子ユースBはユースCのルートから一部変更してのルートで実施された。予選から大幅にグレードが引き上げられ、ユースBの選手にとってはかなり厳しい内容だった。出だしの数手で落ちる選手が数名いたほどスタートからバランシーなルートで、下部の切り返しの核心部（17手）前後でフォールする選手が続出した。優勝を決めたのは思い切りの良いムーブで下部を突破していった抜井亮瑛。昨年に続きユースBでの連覇となった。

女子ユースAは核心部（19手）を突破したのは、小島

果琳と伊藤ふたばの2選手。伊藤ふたばは完登ペースでのクライミングを続けていたものの、上部でのカチを保持したところで急に肘が上がり次の1手でフォール。完登を逃したものの27手+での優勝となった。

男子ユースAは不安定な要素が続くルートを象徴するような展開。決勝はほぼ予選とは逆の順位となり、予選10位で決勝に進んだ伊藤寛太郎が、優勝候補の西田秀聖らを破り大金星をあげた。

女子ジュニアも全員が核心部まで到達するものの突破したのは高田こころと森脇ほのかの2名のみとなった。地力のある高田こころがその後も高度を伸ばし、26手+での優勝を決め昨年の雪辱を果たした。

男子ジュニアは今年のボルダリングジャパンカップで無念の腰痛リタイアをした榎崎明智の復帰戦となった。中上太斗や堀田豪とともに圧巻のクライミングで予選を両完登し、挑んだ決勝でも多くのライバルたちが上部で苦しむ中、ひとり抜け出し32+で連覇を達成した。

結果としては、ルートの難度に比べてそれほど波乱が起きなかった大会だったと言えるだろうし、全ての選手の登りを見てみて、今年の世界ユースで活躍する選手が大勢あらわれる可能性を期待させる内容だった。また、特に男子のジュニア達は選手間の雰囲気も非常に良く、昨年ワールドカップで活躍した是永敬一郎や波田悠貴に迫る選手となるのは間違いないだろう。若い選手はメディアの注目は女子選手に集まっているが、今後の男子選手からも目が離せない。

最後に、年々大会規模が大きくなり注目度が高まっていく中で、この大会に関わって頂いた皆様方のご支援、ご協力に厚く御礼申し上げます。

(副実行委員長 藤枝隆介)

### ●ジュニア男子

順位	氏名	予選ルート1 高度	予選ルート2 順位	予選 高度	予選 順位	予選 総合順位	決勝 高度	順位
1	榎崎 明智	TOP	1	TOP	1	1	32+	1
2	土肥 圭太	35+	6	30	5	6	28+	2
3	今泉 結太	33	11	28+	7	8	28+	3
4	田中 修太	36+	4	TOP	1	4	28	4
5	原田 海	35	7	28+	7	7	28	5
6	中上 太斗	TOP	1	TOP	1	1	26+	6
7	本間 大晴	36+	4	29	6	5	23+	7
8	堀田 豪	TOP	1	TOP	1	1	21	8



榎崎明智

### ●ジュニア女子

順位	氏名	予選ルート1		予選ルート2		予選 総合順位	決勝 高度	順位
		高度	順位	高度	順位			
1	高田こころ	24	1	31+	1	1	26+	1
2	森脇ほのか	23+	2	31+	1	2	21+	2
3	戸田 萌希	20.5+	5	29	3	3	19+	3
4	中村 真緒	22	4	24+	5	4	19+	4
5	西田 朱李	19+	7	29	3	5	19	5
6	金子 桃華	22+	3	19+	10	6	19	6



高田こころ

### ●ユースA男子

順位	氏名	予選ルート1 高度	予選ルート2 順位	予選 高度	予選 順位	予選 総合順位	決勝 高度	順位
1	伊藤寛太郎	32+	6	23	12	10	23+	1
2	伊勢 一真	34	4	28	4	4	22+	2
3	西田 秀聖	34+	1	31	1	1	21.5+	3
4	竹田 創	31	8	28	4	7	21+	4
5	渡辺 颯海	31	8	24	7	9	20+	5
6	百合草碧皇	31	8	28+	2	5	17+	6
7	小西 桂	34+	1	23	12	6	14+	7
8	小川 智士	31	8	28	4	7	13+	8
9	三根生慶太	33	5	28+	2	2	3	9
10	大里 拓己	34+	1	23+	8	3	2+	10



伊藤寛太郎

### ●ユースA女子

順位	氏名	予選ルート1		予選ルート2		予選 総合順位	決勝 高度	順位
		高度	順位	高度	順位			
1	伊藤ふたば	29+	1	TOP	1	1	27+	1
2	小島 果琳	25+	3	28+	7	4	24	2
3	栗田 湖有	25+	3	29+	3	3	19+	3
4	菊地 咲希	23+	5	29	5	6	19+	4
5	樋口 結花	19+	8	29+	3	5	19	5
6	瀧川 萌美	23+	5	28+	7	8	19	6
7	曾我 綾乃	19+	8	22+	9	9	16+	7
8	平野 夏海	26	2	TOP	1	2	15	8
9	二宮 凜	20	7	29	5	7	14+	9



伊藤ふたば

●コースC男子

順位	氏名	予選ルート1 高度	予選ルート1 順位	予選ルート2 高度	予選ルート2 順位	予選 総合順位	決勝 高度	順位
1	小俣 史温	25+	1	20+	6	2	39	1
2	谷井 和季	19+	8	20+	6	9	39	2
3	日高 清志郎	21+	3	21+	2	3	29+	3
4	隅谷 樂	21+	3	20+	6	6	29+	4
5	田宮 瑛人	23+	2	23	1	1	27	5
6	松岡 玲央	21	7	21+	2	4	26+	6
7	安楽 宙斗	19+	8	21	4	8	26+	7
8	竹村 比呂	21+	3	20	11	7	26	8
9	大下 賢実	21+	3	21	4	5	22+	9
10	佐藤 悠織	19+	8	20+	6	9	8+	10
11	通谷 律	19+	8	20+	6	9	6+	11

●コースB男子

順位	氏名	予選ルート1 高度	予選ルート1 順位	予選ルート2 高度	予選ルート2 順位	予選 総合順位	決勝 高度	順位
1	抜井 亮瑛	31	7	28+	3	6	23+	1
2	前田健太郎	31.5+	4	28+	3	4	22+	2
3	村下 善乙	32+	3	28+	3	3	21.5+	3
4	三根生仁慈	31	7	23+	8	7	21+	4
5	安川 潤	30+	11	24	6	10	20+	5
6	川又 玲瑛	33	1	TOP	1	1	17+	6
7	上村 悠樹	31.5+	4	24	6	5	14+	7
8	関口 準太	31	7	23+	8	7	13+	8
9	田中 裕也	33	1	31+	2	2	3	9
10	大後戸陽太	31	7	23+	8	7	2+	10



小俣史温



抜井亮瑛

●コースC女子

順位	氏名	予選ルート1 高度	予選ルート1 順位	予選ルート2 高度	予選ルート2 順位	予選 総合順位	決勝 高度	順位
1	小池 はな	24+	1	29	2	2	26	1
2	森 奈央	23+	3	TOP	1	1	19	2
3	小倉 紗奈	24+	1	29	2	2	19	3
4	工藤 空	22	4	24+	5	4	19	4
5	石井 秀佳	19+	5	28+	4	5	19	5
6	小田 穂香	14+	10	20+	7	10	19	6
7	西脇 千夏	14+	10	20+	7	10	18+	7
8	伊東 そら	19+	5	19+	12	6	14+	8
9	小林 和音	17+	8	20	11	9	14+	9
10	荒居 美咲	19+	5	19+	12	6	13+	10
11	妻嶋 心路	14+	10	22+	6	6	10	11

●コースB女子

順位	氏名	予選ルート1 高度	予選ルート1 順位	予選ルート2 高度	予選ルート2 順位	予選 総合順位	決勝 高度	順位
1	谷井 菜月	TOP	1	TOP	1	1	TOP	1
2	美谷島ももか	22+	7	26+	8	9	27+	2
3	工藤 花	25+	2	29+	5	3	21+	3
4	松藤 藍夢	21	9	31+	4	7	20+	4
5	柿崎 未羽	23+	4	20+	13	8	19+	5
6	青柳 未愛	25+	2	TOP	1	2	19	6
7	中川 瑠	22+	7	33+	3	4	19	7
8	野村 遥	23+	4	29	7	5	19	8
9	小林 舞	23	6	29+	5	6	19	9
10	井土 桜花	19	12	26+	8	10	19	10



小池はな



谷井菜月

# 第12回山岳スキー競技日本選手権大会報告

去る4月14日(土)、15日(日)の両日に渡って、第12回山岳スキー競技日本選手権大会が開催された。会場は初回からと同じ長野県の栂池高原スキー場から上部の山岳エリア。昨年是一回中断した後の大会であったため、コースを小さくしてコンパクトな運営に努めたが、今年は以前と同様に大きめのコースに戻し、走り甲斐のある大会を目指した。エントリー数は昨年とほぼ同数の61名。

今回の大会は、開催日の天気予報がかなり以前から悪天予報であった。低気圧の通過による激しい雨と風が予想されており、そのため大会2日前にはコースを縮小することを決定。さらに、当日の朝にゴンドラが動かずコースが使えなかった場合も想定して、ゲレンデ内でレースを行うための準備も並行して行った。開催日の朝まで天候は読めず、最後まで人や物資の手配には気を揉むこととなった。

14日は開会式とブリーフィング。悪天予報にも負けず、ほとんどの選手が会場に来てくれた。例年のことだが、開会式会場の後ろのスペースではご協賛いただいたメーカーによる商品展示や即売会が開かれ、多くの選手がこの場でしか買えない専用用具などを買い物したり、情報交換の場として利用していた。

開会式では八木原会長から、2020年のユース五輪で追加種目となった本競技について、今後の五輪種目化も視野に入れて取り組んでいく旨のお話をいただいた。続いて大会運営の多くを担っていただいている長野県山岳協会の唐木会長からも、選手を激励するお言葉をいただいた。その後、コースやルールの説明が平田コース主任からあり、悪天候に備えてウェアに気を配るようにとの話もあった。

開会式の後には2月に中国で行われたアジア選手権大会の報告、3月の韓国大会や昨年のカムチャツカの大



会の報告が参加した委員からあり、選手たちも海外の大会の様子を写した写真に興味深く見入っていた。

明けて15日は、前夜からの雨は降っているものの朝の時点で風はあまり吹いておらず、ゴンドラも無事に動いて上部に設定したコースで行えることになった。ただし、まだ降雨があること、今後冬型の気圧配置になり気温が下がり風が吹き始めるだろうことを考え、さらにコースを縮小して実施することにした。

9時40分、予定より10分遅れでレースはスタート。風雨の中、選手たちは勇んで駆け出していく。周回コースのため、途中の激しい先頭争いの様子も垣間見ることができる。レースは、スタートから先頭に飛び出した小川壮太選手が最後までトップを譲らず、そのままゴールした。レース途中から雨は止み、時折陽射しが感じられるようにもなったが、風は強まって一時ゴンドラは運休した。そんな天気の中ではあったが、57人が完走。上位の結果を下記に示す。

今回の大会は当初アジア選手権にする予定で日程を組んだため、例年より一週間ほど開催日が遅くなった。そのためスイスのクラシックレース「パトロール・ド・グラシエ(PDG)」と日程が近くなり、有力選手数名はPDGに出場して日本選手権に出られない事態



となった。そのことで若手や新しい選手たちに上位入賞のチャンスが広がった大会ともなった。

2020年にはユース五輪がスイスで行われるが、そ

の対象年齢選手は、今回は少年男子の2選手のみである。来シーズンにユース五輪のアジア大陸枠選考もあるため、今後も少年選手の発掘をしたい。また最近はトレランから有力選手が入ってくる流れはできてきているので、今後は競技のすそ野をより広げるために、一般愛好家選手を増やしていく努力が必要と感じている。

悪天の中での開催となったが、事故やケガもなく、最低限のレースができたことには胸をなでおろしている。悪条件の中で大会を支えるために動いていただいた長山協をはじめとしたボランティアスタッフの皆さま、地元柵池でご協力いただいた皆さまに心より感謝したい。

山岳スキー競技はまだ課題山積ではあるが、競技を広く普及させていくことを念頭に、運営側の体制も整えつつ活動していきたい。

カテゴリー		距離と標高差	1位	2位	3位
国際規格	成年男子	8.8km 690m	小川 壮太	小寺 教夫	國吉 正紀
〃	成年女子	8.0km 550m	星野 緑	渡邊ゆかり	加藤 倫子
〃	少年男子	〃	駒井 夏人	小川 耕助	――
〃	少年女子	〃	駒井 野乃	――	――
ショート ビギナー	成年男子 (混合)	〃 7.3km 410m	林 充憲 村田 誠至	太宰 智志 太宰奈津子	曾根 慎一 山田 朝陽

(山岳スキー委員会 澤田 実)

### IFSCボルダリングワールドカップ2018八王子

6月2日(土)～3日(日)に八王子市のエスフォルタアリーナ八王子で表記大会が開催されます。世界30ヶ国(予定)からトップ・クライマーが集い、ハイレベルなパフォーマンスを競います。是非、ご観戦ください。

2日(土): 予選、開場9時、予選開始10時

3日(日): 準決・決勝、開場8時、開会式8時30分  
女準決9時、決勝14時30分、表彰式17時45分  
(スケジュールは変更される場合があります)

**【観 戦】** 有料です。前売りチケットは、2日自由席大人2,000円、高校以下1,000円、3日自由席大人3,500円、高校以下1,700円。各プレイガイドで好評発売中。

**【交 通】** 京王・高尾線「狭間」駅下車徒歩1分

**【問合せ】** 日本山岳・スポーツクライミング協会

☎ 03-3481-2396 info@jma-sangaku.or.jp

## 平成30年度 安全登山サテライトセミナー (東京)

高等学校等において登山の指導的立場にある教職員や大学生、一般登山者、登山用具店の担当者、トレラン等愛好家を対象に、安全で安心な登山を実施するために必要な知識や理論の習得を図るセミナーです。

**会 場:** 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟4階、セミナーホール417

**日 程:**

### ―― 7月21日(土) ―― 受付開始: 12時～

講義1「安全登山の仕組みとプランニング」(13:10～15:20)

北村憲彦講師 名古屋工業大学教授

講義2「夏山の気象と雪氷に潜むリスク」(15:20～16:20)

飯田肇講師 富山県立山カルデラ砂防博物館学芸課長

講義3「自立した登山者の育成を目指して～高校山岳部での指導を通じて～」(16:30～18:00)

大西浩講師 長野県大町岳陽高校教諭

### ―― 7月22日(日) ――

講義4「役に立つ登山のリスクマネジメントのキーワード」(9:00～10:30)

村越真講師 静岡大学教授、日本オリエンテーリング協会副会長

講義5「疑う事から始めよう～明確な目的意識と懐疑の精神がナビゲーションの鍵～」(10:40～12:10)

村越真講師 静岡大学教授、日本オリエンテーリング協会副会長

講義6「事例から学ぶ山の医学～夏山に多い疾病(熱中症と高山病を中心に)～」(13:10～14:50)

大城和恵講師 国際山岳医、北海道大野記念病院

**申込方法:** 国立登山研修所 ☎ 076-482-1212

<https://www.jpnsport.go.jp/tozanken/syusai/tabid/158/Default.aspx>

**申込期間:** 5月21日(月)～6月21日(木)

## 第114回 Mountain World

### 「岩登り競技会」の端緒を担った大宮求

池田常道

大宮求は4月2日、東京練馬区・光が丘のアパート自室で亡くなっているのが発見された。山学同志会に所属し、1973年春に國學院大學を卒業、24歳で山と溪谷社に入った。入社直前の2月24日から25日にかけて谷川岳一ノ倉沢の滝沢第三スラブを冬季単独初登攀した。「三スラ」と略称されたこのルートは、7年前に森田勝と岩沢英太郎によって冬季初登攀された伝説のルートだが、7年間成功例を見なかった。この年2月22日から24日に遠藤甲太、両角泰夫、與田守孝によって冬季第2登が果たされ、間をおかず大宮の冬季単独初登攀が記録された。

大宮の海外登山は、1975年のラトックI峰(7145m)に始まる。同志会では翌年春にジャーヌー(7710m)北壁に行くことが決まっていたが、彼は、原真隊長の日本山岳会東海支部隊に加わってカラコルムを選んだ。結果はクーロワール取付きの5600mで断念。ピアフォ氷河からシム・ガン氷河を経てチョクトイ氷河へと、山群を時計回りに一周、北面を観察した。

1976年10月、日山協はソ連の招請に応じて、クリミアで行なわれる国際岩登り競技会に選手を派遣することになった。とは言っても、選手を選考する余裕もない協会は丹部節雄理事が山学同志会の小西政継に、強い奴を二人推薦してくれと依頼、今野和義と大宮が田村俊介監督の下に派遣されることになった。

個人決勝の会場は高さ75mの岩壁、傾斜85～105度。トップロープで確保されて、設定されたゴールまでの所要時間を競う。この競技会にはソ連勢以外にポーランド、西ドイツ、東ドイツ、オーストリア、ルーマニアなど日本以外からも参加があったが、結果は1位から8位までソ連勢が独占、ポーランドの3人が続き、日本勢は大差をつけられて終わった。

トップロープで確保されたスピード競技とはいえその実力差は歴然で、今野・大宮は大きな教訓を得て帰ってきた。日山協も岩登り強化の必要性を痛感し、翌77年秋に中央アルプスの宝剣岳天狗岩で第一回岩登り競技会を開催した。しかし、傘下岳連からの応募ははかばかしくない。そこで、大宮が『岩と雪』編集部と協力して、当時活発に登っていたクライマーに参加を要請、

なんとか17人の選手をそろえた。当時、EBのようなフラットソールを履いていた人は少なく、大半がビブラム底の登山靴かクレッターシューズだったが、予選後の昼休みにアシックスから配られたスニーカーに履き替えた選手が大幅にタイムを塗り替えたのが印象に残る。その後はスピード一辺倒に対する批判が強まり、80年の第4回大会から戸田直樹をルートセッターに迎えて難易度重視に転換、さらにトップロープを廃したリード方式へと変わっていく。フリークライミング隆盛の下に日山協の出番はなくなったが、その端緒は今野・大宮コンビが切り開いたと言っていい。

その後大宮は、80年山学同志会のカンチェンジュンガ(8586m)北壁遠征に参加して無酸素登頂に成功する。が、休職願はかなわず、山と溪谷社を去らなければならなかった。生来の楽天主義からか、これで自由に登る暇を得たと感じた彼は、カンチェンジュンガの余勢を駆ってラトックIV峰(6456m)に向かった。メンバーは、カンチと同じ春にタムセルク(6608m)北壁を登った岡野孝司のほか半田久、田鎖勤の若手で、ヒマラヤ経験者は大宮と岡野だけだった。そもそもラトックには75年に大宮が挑んだI峰から79年に広島山の会隊が登ったIII峰(6949m)までしか名前が付いていなかった。仮にIV峰と書いて申請したところ正式に許可が下りたのだという、いかにも大宮らしいアバウトさの結果、IV峰は国際的に認知された山名になった。

カンチでの高所順応を信じていた大宮は、BC入りした翌日からアルパインスタイルで頂上を目指すが、半田久と行なった攻撃は頂上直下で敗退。いったんBCまで下りて、岡野と二人再度攻撃して初登頂に成功した。その帰途、ビバークしようとテラスを作ろうと掘っていた足元が崩壊、クレバスに50mほど転落した。さいわい、アイスバイルも食料を詰めたザックも手の届くところにあったから焦りはなかったが、足首を痛め、岡野も胸を痛めて動けない。5日目にして横にトンネルを掘りながら這い進んでみると、ひょっこり稜の側面に出た。稜線まで這いあがったところで下にいた仲間と連絡が付き、翌日応急のスノーポートにくるまれてBCに收容された。取り残された岡野は、近かくにいた英国隊によって、転落後8日目に救出された。

この事故で足首に後遺症を負った大宮は、その後もナンガ・パルバット冬季やエヴェレスト東北東稜などヒマラヤへ通い続けたが、成功を得るには至らなかった。一方で日山協国際委員を務め、来日クライマーのアテンドを一手に引き受けてきた。

(文中敬称略)

# ふるさとの山 紹介

青森県・白神山地 白神岳(1,235m)

ジブリ映画「もののけ姫」をご存じだろうか。映画では神々しい森の世界が描き出されていたが、その舞台のモデルの一つとなったのが白神山地である。

青森県と秋田県にまたがる13万haに及ぶこの白神山地には、広大で原始的なブナ林が残されており、特に自然度の高い1万6971haが世界自然遺産に登録された。

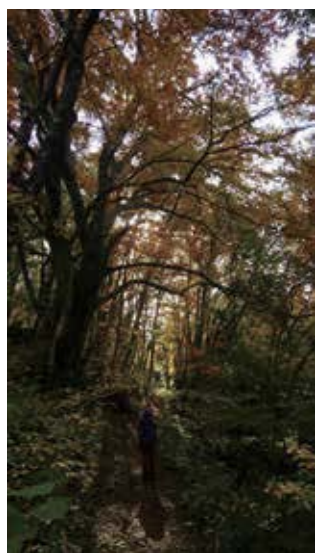
今回は、白神山地に連なる山々の一つである、標高1,235mの白神岳マテ山コースをご紹介します。

JR五能線の白神岳登山口駅より約3kmの地点にある登山口広場には、30台程度停めることができる駐車場とトイレが完備された清潔な休憩所がある。ここで準備を整えて、いざ出発!!

休憩所裏にある舗装された道路を道なりに10分ほど歩くと、三角屋根の小さな記帳所があるので、ここで登山届を出して登山道へ。すると、すぐにブナの大木が現れ、しばしブナと対話したい気持ちになるが、前へ進もう。標高は低いが、登りは4~5時間かかる山である。

二股分岐点まで歩いたら一息いれて、また上へ上へ。「結構しんどいぞ、水場はまだか〜!」と心の中で叫び始めたちょうどその頃、水場が目の前に現れるから不思議だ。そして、その水場にある鉄製の異常に重い柄杓で、手をプルプルさせながら飲む水がまた格別にうまい。

冷たい水で元気が出た後は、急な坂を登り、けっばり、ながらマテ山分岐へ。分岐に到着したら、ザックをデポし、マテ山(841m)を往復するのもよいだろう。



秋は木々の隙間からきれいな紅葉が望める。夏は…。

マテ山分岐から大峰岳分岐までは、1時間45分ほど。ブナに囲まれ幸せな気持ちになったり、急な坂でしんどい気持ちになったり、一喜一憂な道中ではあるが、視界が開けた時の感動は何ものにも代えがたい。目の前に広がる山々、どこまでも続く海、真っ青な空、遠くに見える船や家々。季節が秋であれば、紅葉の美しさにしばし見惚れてしまう。

大峰岳分岐の稜線まで来たら、山頂はもうすぐそこ。途中、立派なトイレがあり、その30mほど先に避難小屋、さらに進むと白神岳の一等三角点がある。

晴れた日の山頂からは、世界遺産の核心地域や津軽富士と呼ばれる岩木山もバッチリ見える。最高の景色に囲まれながら食べるヤマメシは格別だ。山頂直下には水場もあるため、夜の晩酌に使用する水を汲んでいくとよい。

下りは2~3時間。ブナの幹に触れつつ、鳥の鳴き声に耳を傾けつつ、どこの温泉に寄っていかうかなと考えながら歩いていけば、あっという間だ。登山口にあるブナの大木が「おかえり」と出迎えてくれるから、思わず「ただいま」と言いたくなる。

今回ご紹介した白神岳マテ山コースには、要所要所に看板があり、また急な箇所にはロープも設置されているので、初めての人でも安心して登ることができる。電車で来るには少しアクセスが不自由かもしれないが、ぜひ一度は訪れてもらいたい山だ。青森県の山と言えば、八甲田や岩木山を真っ先に思い出すかもしれないが、白神岳もまた、感動を味わえる山であることに間違いはない。

※白神岳二股コースは崩落のため、現在通行止めとなっている。(平成31年供用予定とのこと) また、十二湖コースは起伏が激しく藪が深い箇所があるため注意が必要である。

(青森県山岳連盟・黒石山岳会 古本陽子)



# 「みんな集まれ！ なすかし雪遊び隊2018」報告

今年度で5回目を迎えた。2018年ジュニア登山教室「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2018」が国立那須甲子青少年自然の家を舞台に3月27日(火)～29日(木)の2泊3日の日程で、栃木岳連、福島岳連の協力をいただき開催された。

この登山教室は、小学生から中学生を対象とし残雪期の野外活動を通して、以下のことを目的とした。

- ①雪の残る春の自然とのふれあいを体験し、自然の素晴らしさ楽しさを学ぶ。
- ②共同生活による人(他者)とのふれあいの楽しさ、団体生活のルールを知る。
- ③自分でやろうとする気持ちをふくらませ、自ら考えて行動できるようにする。

今年は、東京・千葉・神奈川から男子18名の参加者が集まり、学年も小学2年生から中学3年生までと幅広い構成となった。

1日目は新宿西口を7:00に出発し、渋滞もなく予定より30分早く青少年自然の家に10:10に到着。開校式では隊長の日山協本木顧問から、活動の目的についてお話を頂いた。参加者の自己紹介の後、昼食を取り午後の最初の活動に入った。

始めのプログラムは雪上体験で、初めてスノーシューを体験する子がほとんどで、慣れない雪上歩行に始めは戸惑っていたが、次第にコツを掴んで歩けるようになった。自然の家本館から10分程度の所にある営火場Aまでは、ソリを引きずりながらスノーシューを履いて歩き、到着するとみんな待っていましたとばかり一気にソリに乗り始めた。みんな雪の環境に慣れていないため雪があるだけで大喜び。快晴で雲一つなく、広大な雪原にいるのは我々だけで、完全なプライベート状態だった。途中から雪合戦や鬼ごっこなどを



始める子供も現れ、雪まみれになりながら楽しく活動した。

夕食後の活動は、猟師による講話学習。地元の猟師である大高紀元(おたかのりもと)先生を講師にお招きし、実際に熊を仕留める時はどのような方法をとって行かかなど詳細に話を頂いた。熊の毛皮を持参して頂き子供達が直に触ることができるなど都会ではできない貴重な体験をすることができた。また、猟をするときに使用したライフル銃の薬莖を子供たち全員にプレゼントして頂いた。

講話の後は「ふりかえり」の時間とし、1日目の思い出を各自まとめ、感想を発表した。

2日目は、6時に起床し、いろいろな団体の方々に参加する「朝の集い」に出席し、ラジオ体操、自分達の団体の自己紹介などをして交流を図った。朝食の後、今回の大イベントである「雪のハイキング、スノードーム作り」となった。

前日と同様外は晴天で、風も穏やかだった。スノーシューを履いて標高1052mのパノラマ展望台に向かったが、昨年の大雪と違って前週に降った雨の影響で積雪量が少なく正規のルートではなくトラバースをしな



がら時間を掛けて目的地へ向かった。急登などころでは、みんなで励まし合い、途中長靴が抜けたり、スノーシューがはずれたりするなどアクシデントもあったがその事が返って子供たちに、「全員無事に目的地へ到着しよう」というエネルギーとなったようで、足並みが揃いおよそ歩き始めてから40分程で目的地のパノラマ展望台に到着した。

子供たちはみんな元気で、休む間もなくスノードーム作りを始めた。スノーソーの使い方を教わりながら雪のブロックを作り、みんなで積み重ねる事で、見る見るうちに雪のブロックが高くなっていった。別のグループは、みんなが楽しみにしているおやつタイムの準備に取り掛かり、全員が落ち着いて飲食ができるように、テーブル(約縦50cm×横100cm×高50cm)を作った。

スノードーム作成完了は、平たくて薄い雪のブロックを一番上に乗せて、完成した。子供たちは交代でドームの中に入り大喜びではしゃぎ、そのころには紅茶も出来上がり、クッキーをドームの中に持ち込んでとみんなと一緒にいただいた。

一昨年はこの企画が雪不足で中止となったが、今年は参加者全員で記念写真を撮影し最高の時間を満喫することができた。

その後、自然の家にもどり、昼食を済ませ、自然観察の時間となった。場所は、自然の家周辺。野ウサギの足跡の発見、春の芽吹きが始まった木々を見ることができた。講師は、国立那須甲子青少年自然の家所属の高田雅雄先生と三村正先生を招き、施設周辺の植物に関して詳細に説明して下さり子供達は目をキラキラさせ話に夢中だった。

本日の行動量が日頃の運動量より多かったとみんなが言っていたように、プログラム終了してからの夕食の食べっぷりがとても良かった。

「ふり返り」の時間では、子供達同士の触れ合いがとても自然になり、お楽しみ会が大いに盛り上がった。会

の内容は、子供たちが主体となり、我々大人は手伝いをするという形で縁の下の力持ちとなった。内容は、班対抗ドッジボール、キックベースなどを行い、みんなで協力して楽しんだ。広いプレイホールを思いっきり走り回って友達との交流を深めることができた。

最終日は、2日目と同様に6時に起床したが、帰京すると言うことで、部屋の掃除をみんなで協力して行った。日頃、自分でやることの少ない寝具の片づけや掃除機かけを体験し、子供たちにとっては「自分のことは自分です」という貴重な経験になった様だ。終了してから「朝の集い」に出席した。

最後の活動である雪上運動会はソリリレーとストック倒しをした。二つの競技とも大いに盛り上がった。また、40分程自由時間を作ったが、ここでも楽しい思い出を作ることができたようだ。

運動会終了後、最後の「ふり返り」では、一番、楽しかったこと・頑張ったこと・辛かったこと・勉強になったことを発表し合い、友達やスタッフへの一言も書いた。多くの子供たちは、頑張ったことと辛かったことの両方にスノーシューを挙げていた。スノーシュー体験は、この行事で欠かすことのできない活動になっているようだと個人的に感じた。また、「来年も参加したい」とほとんどの子供たちがコメントしていたことから、活動プログラムの内容も改めて練り直しをして来年に臨みたい。

最後の閉講式では仙石登山部長から講評を頂き、修了証を授与され、なすかし雪遊び隊2018は無事終了した。初顔合わせ同士とも子供たちはすぐに打ち解け、協調精神と自律する意識も芽生え、雪遊び隊の目的も概ね達成できたと考えられる。2泊3日は、2度目の実施期間であったが、学校・家庭以外の人達との団体生活で得たこと、そして自然との触れ合い、さらに環境保護の気持ちを、今後も忘れずに各々が大切な思い出として成長してほしいと願っている。

(文責 中瀬和徳)



ギリシア神話の神々の座に登り、天空の修道院を訪ねる旅

## ギリシャ最高峰オリンポス山登頂と 世界遺産メテオラ・ハイキング 9日間

発着地 東京・大阪

旅行代金 ¥498,000

出発日 8/30(木)・9/22(土)

※燃油サーチャージ(2018年4月20日現在:目安約7,000円~18,500円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボコド保証会員

 **アルパイン ツアーズ サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com <http://www.alpine-tour.com>

## 2018年UIAA理事会報告

日時 2018年3月23日(金)～24日(土)

場所 ネパール・カトマンズ、アンナプルナホテル

参加者 UIAA理事及び各委員会委員長

日本からの出席者

八木原罔明会長、小野寺斉常務理事

今までは委員長参加は会議の最後に行っていた。今回は、構造改革を念頭に置いており、最初からの参加になった。報告は例年通り最後に行った。

相変わらずE B (Executive Board) とドイツ、イタリア、オーストリアの3大国の不仲により、特にイタリア山岳会は自分の会出身のMC 委員を会議にも出さなかった。

### 〈第1日目〉3月23日(金)

戦略担当のE BであるThomas Kaehrがpowerpointを使って、特に委員会の改革について踏み込んだ提案を行った。昨年あたりから特に強調されてきたことであるが、これらについてはWG (Working Group) を作って検討してきたことをあらまし発表したものである。

委員の中にもっとスキルのある人材を送り込めないか、或いはUIAAという組織の中で委員会の立場をもっとポジティブに出来ないか、予算をもっとつぎ込めないか、など多々あった。特に3大国からの委員をもっと出してほしいという要望がアクセス委員会などからあった。現行の委員会規程についても見直しが必要とのこと。正規委員は別としてcorresponding member (特派員)として、長い間名前だけ残っている人については削ることも必要との見解がなされた。2つの委員会を統合したり、委員会内部の統制をもっとしっかりするようとの具体的な構造についても改革案が提示された。今後内部調整がなされ、10月の理事会・総会に向けて動いていくことになる。

### 〈第2日目〉3月24日(土)

実際には本会議になる。予め定められたアジェンダに



りり進行された。主な内容を中心に記述する。

#### 1. 昨年の理事会の議事録の承認について

例年通りの内容であったが、ドイツのヨセフから注文がついた。結論ばかりではこれでは何のことも分からない。もっと背景を入れてほしいとのこと。議事録は事務局員のStephanieが作成しているが、もう少し詳しく書くことで了解された。

#### 2. 会長レポートに関しては…

4年ごとの方針(2017～2020)についての途中経緯であり、特に意見はなかった。

#### 3. 次に財務報告

2017年度の支出予算は約770,000 CHF (スイスフラン)に対し、実績は710,000 CHFであり、8,000 CHFの赤字予算であったが、実際には2,000 CHFの黒字となっている。ただ、AD (Anti-doping) の支出が約7300 CHF、Ice-Climbingの169,000 CHFであり、合わせると170,000 CHFを超す。20%を越しており、これについてもドイツからクレームがついた。

UIAAの会費収入は316,000 CHFであり、総収入の40%を少し超している。さらにスタッフにかかる費用は291,000 CHFになっている。昨年に比べ少し上がったが、これは広報担当にかかる費用とのこと。

#### 4. 新会員承認について

- (1) NATO (北大西洋条約機構) のMountain Warfare Center of Excellence (先端山岳戦闘機関?) については、軍隊関連はNGということで却下された。
- (2) オブザーバーであるが、Jordanは旅行社から山岳協会への変更が認められた。
- (3) スラッグラインの協会については、いろんな意見が出たが10月まで持ち越しとなった。UNITメンバーも視野に入れることになる。
- (4) ガイドの団体の1つである国際リーダー協会は入会が認められた。フルメンバーである。

#### 5. UNESCOへの「アルピニズム」申請

以前も報告したが、フランスを中心に「アルピニズム」

を無形文化遺産に申請しようという動きがある。近隣のイタリアなどと協力して申請書類が出来上がり、申請の運びとなる。

## 6. 地域 (continental) の活動報告

参加した地域のみでの発表となった。ヨーロッパ、北米、オセアニアである。

### (1)ヨーロッパ EUMA

BMCのAnne Arranが発表した。すったもんだしていたがやっとミュンヘンに事務所を構え、1名が働いているとのこと。今年中にはブリュッセルで総会を開くことになっている。BMCもEUMAに加盟のサインをしたがまだ返事はないらしい。足並みも揃っていないとのこと。

### (2)北米、オセアニア

北米はカナダのPeter Muirが、オセアニアはニュージーランドのStuart Grayが発表したがいまだ大きな活動はないとのこと。

## 7. 次回のMC会議

次回のMC会議の場所は未定、10月に決定する、但し開催は3月ではなく5月とのこと。

因みに今年の総会はモンゴルで来年はキプロスが決まっている。

## 8. スカイランニング協会の報告

Unitメンバーであるスカイランニング協会から活動報告があった。

## 9. 各委員会活動報告

8委員会の報告があったが、割愛する。

(記 小野寺 斉)

## 【第3回全国「山の日」フォーラム開催のご案内】

(一財)全国山の日協議会が主唱者となり、8月11日(祝)の「山の日」の周知活動の一環として、また、山と自然を舞台に行われる様々なアクティビティや、国立公園の利用促進、地域活性化の課題提起を目的として、第3回全国「山の日」フォーラムが、来る6月9日(土)、10日(日)の2日間に亘って開催される。

シンポジウムは、たくましい子供たちの育成、山と自然(山の安全と山岳救助)、地域活性化(国立公園/ロングトレイル/森林・河川の利用促進)などをテーマに、6つのパートに分けて行われ、それぞれの専門家の講演や、リレートーク、パネルディスカッションが行われる。

9日午後には、佐々木大輔氏による「マッキンリー大滑降」のムービー上映と講演も予定されている。

フォーラムのホームページの最新情報を確認して、ぜひ参加しよう。

期 日：6月9日(土)～10日(日)2日間

会 場：UDXビル4階(UDXシアター) 〒101-0021 東京都千代田区外神田4丁目14-1 秋葉原UDXビル

入 場：無料

定 員：各パート170

問合せ：全国山の日協議会 ☎03-6457-4522



平成30年度(4月)  
常務理事会報告

日 時 平成30年4月12日(木)  
18時～21時30分

場 所 岸記念体育会館・4階特別会議室

出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、村岡、小日向、合田、仙石、蛭田、町田の各常務理事、中島、古屋監事、16名中16名出席予定

## 1. 議 事

- (1)平成29年度30年3月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済) 異議なく承認された。
- (2)平成29年度理事会(第4回)議事録の承認(事前送付済) 異議なく承認された。
- (3)各種規程類の改定について 合田常務理事が提案説明。遭対委員会からも追加提案があった。  
組織・管理運営規程、スポーツクライミング日本代表チームのユニフォーム等

運用内規、登録選手規程・細則について、異議なく承認された。

(暴力行為等相談窓口設置規程の実現についても意見が出された。)

- (4)30年度第1回理事会次第について 小野寺常務理事が提案説明。一部訂正して承認された。
- (5)30年度総会次第について 小野寺常務理事が提案説明。一部訂正して承認された。
- (6)国民体育大会功労者表彰対象者の推薦について 該当者なしで承認。
- (7)アジア競技大会派遣と追加派遣について 選手6名、正式役員2名、アディショナルオフィシャル1名の派遣が、異議なく承認された。
- (8)スポーツクライミング上級コーチ資格について 蛭田常務理事が提案説明。意見として、受講条件の見直し、リード、スピードの日山協認定資格の検討。全体として日山協独自の認定資格の検討。指導委員会とSC部の意見の相違があり、将来的に連携・検討を要する。提案内容を一部訂正して承認された。
- (9)理事数の見直しについて 亀山副会長とガバナンス委員会委員のWGとして、次回までに大局的な視野で案

を提出することになった。

## 2. 報告事項

- (1)内閣府30年度事業計画・予算提出について 小野寺常務理事から報告があった。
- (2)中瀬理事辞任の件その後について、谷口浩平氏の内諾が口頭報告。
- (3)スポーツクライミングACC総会報告村岡常務理事から報告があった。
- (4)リード日本選手権報告について 村岡常務理事から報告があった。
- (5)BWC実行委員会報告 村岡常務理事から報告があった。
- (6)IFSC総会報告、2019世界選手権・IFSC総会2019について 平山副会長から口頭報告があった。
- (7)山岳スキーACC総会報告 八木原会長から口頭報告があった。
- (8)UIAA理事会報告 小野寺常務理事から報告があった。追加で八木原会長からネパール地震の日本からの援助金で再建された学校の視察報告があった。
- (9)登山部会報告 仙石常務理事から報告があった。
- (10)全国競技委員長連絡会議(仮称)報告 村岡常務理事から口頭報告があった。
- (11)1 FISE Hiroshima 2018 報告

小日向常務理事から口頭報告があった。今後前向きに関わっていききたいとのこと。

- (12) J A L N e x t マイレージについて  
尾形専務理事から報告があった。
- (13) 今年度開催大会要項について  
以下の大会について村岡常務理事から報告があった。  
・鳥取ユースボルダリング、  
・八王子ワールドカップ  
・盛岡コンバインドの大会
- (14) 国内W C M (Winters Climbers Meet) 報告  
以前にメールで報告済である。
- (15) 平成30年度安全登山指導者研修会開催概要について  
旧称中高年安全登山指導者講習会である。尾形専務理事から報告があった。

### 3. 指導員・審判員 検定結果報告

- 山岳指導員  
・認定日：4月12日  
神奈川：岩下嘉孝、榎本幸二、大塚淳、河本嘉照、倉持武彦、倉屋千穂、坂本圭子、法貴勇一郎、望永和美、以上9名異議なく承認された。
- 平成29年度ルートセッター講習会(加須)合否  
講習会実施日 平成29年12月25日・26日・27日  
C級：波田悠貴、渡辺海人、佐川史佳(以上、埼玉)  
一般：武田匠(埼玉)、松原宏美、小川隼人(以上、東京)、上杉航(静岡)  
異議なく承認された。

### 4. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1) 昭和飛行機スピードスターズ競技会後援  
(2) 山岳検定協会後援  
(3) 大阪チャレンジ登山後援  
(4) 日本ガイド協会公開講座後援  
(5) 登山医学会認定国際山岳医講習会後援  
(6) 安全登山研修講習会共催承認  
(7) 北丹沢山岳耐久レース後援  
(8) 大阪2018チャレンジクライミング後援  
(9) H A T - J 奥多摩交流「子ども自然体験キャンプ」後援  
(10) 高麗神社 第3回高麗郡偉人伝 田部井淳子回顧展 後援依頼  
上記提案については、(1)から(10)まで異議なく承認された。

### 5. 専門委員会動静

2月、3月(2月23日～4月10日)

- (1) 遭対委員会  
2月28日(水) 出席者：12名  
ア) 活動予定  
① 遭対委員研修について  
5月19, 20日 埼玉を予定  
② 指導委員総会について  
6月2, 3日 晴海海員会館 町田出席予定  
③ 全国遭対委員長会議兼遭対常任委員総会 6月23, 24日 晴海海員会館  
④ レスキュー講習会(無雪期)  
8月31～9月2日 国立登山研修所  
⑤ レスキュー講習会(積雪期)  
1月25～27日 谷川岳土合山の家  
イ) 夏山リーダーの進捗について  
ウ) その他  
① 2月20～22日 白馬でAvSARの雪崩講習会に服巻(神奈川)、安藤(山梨)が

参加。

#### (2) 遭対委員会

3月28日(水) 出席者：12名、スカイプ1名

- ア) 夏山リーダーについて  
① 進捗報告(清水)  
6月に千葉でパイロット的に開催する。8月に講師、指導員用に対し研修を実施、10月に第一回講習会を実施、19年にはスタートコーチの検定も行いたい。  
② 4月21, 22日(土)(日)確認について  
③ U I A A 認証について  
イ) 遭対委員会研修について  
5月19, 20日(土)(日)、埼玉県民活動センター  
ウ) 全国遭対対策委員長会議兼日山協遭対委員会総会について  
6月23, 24日(土)(日) 東京晴海・海員会館  
エ) 4月以降の遭対委員会委員体制について  
・常任委員は以下10名とする。  
委員長・町田(群馬)、副委員長・石田(大阪)、瀬藤(埼玉)、事務局長 中丸(神奈川)、常任委員・青山(大阪)、西内(茨城)、松本(善)(埼玉)、楨(東京)、井上(神奈川)、恵(埼玉)、専門委員は以下11名、宮下(茨城)、安藤(山梨)、吉田、建部、松本(光)(東京)、服巻、清水、岩切(神奈川)、角田(群馬)、一本松(兵庫)、森(京都)  
・退任：渡部(栃木)、下越田(神奈川)、近藤(山梨)、永井(茨城)、大沼(岐阜)  
以上5名

#### (3) 指導委員会

3月5日(月) 出席12名

- ア) 夏山リーダー制度について  
イ) 山岳指導員認定について  
・認定日：4月12日を予定  
・申請者：神奈川県山岳連盟9名(岩下嘉孝、榎本幸二、大塚淳、河本嘉照、倉持武彦、倉屋千穂、坂本圭子、法貴勇一郎、望永和美)  
ウ) 大山氷雪技術研修会について  
2月17, 18日、  
① 研修会6名 兵庫(住谷昌利)、広島(荻田純代)、石川(坂田孝雄)、香川(坂本土代、木村康男)、鹿児島(川元隆弘)  
② 上級1名 武藤未久 合格  
③ A級主任 4名 愛知(中山秀樹)、兵庫(須藤英司、西村良信、原秀樹)は全員合格  
エ) 富士山氷雪技術研修会について  
4月28, 29日、募集要項発信。  
オ) 2018年度のS Cコーチおよび上級コーチ養成講習会の開催について  
① 現在申込状況：コーチ4名、上級コーチ0名  
カ) 新指導者制度について  
事前打ち合わせ(カリキュラム作成、検定基準、テキスト)  
キ) その他  
① 広島山岳連盟のS C指導員講習会における受講者(聾啞者)の学科試験再受講について  
② 日山協組織規定の変更について  
・委員長：主管理事任命  
・副委員長：委員長指名  
・常任委員10名以内：委員長指名  
山岳：蛭田、野村、本郷、工藤、平野  
S C：藤江、廣川、有枝、篠崎、羽鎌田  
・専門委員：瀧本、堤、切嶋、石原、井納、太田、伊藤、山崎(岡山)

・委員長：蛭田、副委員長：野村、藤江

#### (4) 指導委員会-2

4月2日(月) 出席12名、委任1名

- ア) 報告事項  
① 夏山リーダー制度について  
② 遭対委員総会(6/23, 6/24)について  
イ) 検討事項  
① 平成30年度予算及び事業計画  
② 富士山氷雪技術研修会(4/29～30)について  
③ 平成30年度S Cコーチ及び上級コーチ養成講習会の開催について  
④ 新指導者制度について  
⑤ 全国指導委員長会議について  
ウ) その他  
① 国体監督資格をS C指導員のみに移行する件について  
② S C上級コーチ受講資格について  
③ S C新指導者制度のカリキュラムについて  
④ 5月の委員会日程 5月7日(月)

#### (5) 山岳スキー委員会

2月9日(金) 20:00～21:40 ネット会議 出席4名

- ア) 報告事項  
① 大会予定  
・2/27-3/1 中国アジア選手権  
・3/17-18 韓国大会(Ind. Ver.)  
・4/20-21 カムチャツカ欧州シリーズ  
・5/4 イラン Damavand Skimo International Fes. アジアシリーズ  
② アジア選手権派遣予定  
・選手：加藤淳一、加藤倫子、小寺教夫、國吉正紀  
・役員：八木原会長、倉橋俊行  
③ 韓国大会への役員派遣について  
④ 3/17-18 宮城オニコウベ山岳スキーレース後援について

#### イ) 協議事項

- ① 第12回日本選手権について  
ウ) I S M F 選手登録管理について  
エ) 来年度山岳スキー委員会予算について  
オ) 来年度世界選手権の選手選考基準について

#### (6) 山岳スキー委員会-2

3月6日(火) 20:00～21:20 ネット会議 出席5名

- ア) 報告事項  
① 大会予定について  
・3/17-18 韓国(Ind. Spr.)  
・韓国大会参加希望：藤川、三浦、伊藤、山田宏、山田朝陽、小寺、佐伯委員同行予定。  
② アジア選手権(北京) + A S M F 総会報告  
イ) 協議事項  
① 第12回日本選手権について  
ウ) I S M F 選手登録管理について  
エ) 来年度世界選手権の選手選考基準について

#### (7) 山岳スキー委員会-3

4月4日(水) ネット会議 出席3名、委任4名

- ア) 報告事項  
① 大会予定について  
・5/11-16 中国青海省 Gangshika 山 2018 World Ski Mountaineering Masters (メ切4/23)  
・韓国大会 3/17-18 報告  
1) 協議事項

- ①第12回日本選手権について  
4月14、15日
- (8)国際委員会**  
3月7日(火) 出席者7名 委任6名
- ア) 報告事項
- ①組織・管理運営規定  
3/3改定 委員会運営についての規定が改定。
- 1) 協議事項
- ①平成30年度総会/第57回海登研について  
6/23、24 栃木県青年会館コンセーレ小ホール
- ②国内外に向けてのHP案について
- 6. その他の重要事項**  
2月23日～4月10日
- (1)日本版NCAA説明会 2月21日(火)  
於：岸記念体育会館 小野寺常務理事
- (2)二本松市長、強化合宿招致要望に来局
- (3)福井岳連 牧野治生会長、旭日双光章受章祝賀会 2月24日(土) 於：福井市ユアーズホテルフクイ 八木原会長
- (4)IFSC ACC総会  
2月24日(土)～25日(日) 於：マニラ

- 村岡常務理事
- (5)第23回オリンピック冬季競技大会日本代表選手解団式 2月27日(火)  
於：東京ミッドタウン地下1F 尾形専務理事
- (6)山岳スキーアジア選手権大会  
2月27日(火)～3月2日(金) 於：北京 八木原会長
- (7)高等学校登山指導者用テキスト等編集委員会 2月28日(火) 於：JSC会議室 尾形専務理事
- (8)第4回定時理事会 3月3日(土)  
於：フォーラムエイト 八木原会長、他
- (9)スポーツクライミング日本選手権(リード) 3月3日(土)～4日(日) 於：加須市民体育館 八木原会長、尾形専務理事、村岡常務理事
- (10)IFSCマルコ会長他打合せ  
3月8日(木)～9日(金) 於：東京 八木原会長、平山副会長、尾形専務理事、村岡・小日向・小野寺常務理事、原田事務局長
- (11)中国ブロック岳連総会  
3月10日(土)～11日(日) 於：山口県 伊藤副会長

- (12)全国山の日協議会運営委員会  
3月13日(火) 於：新宿区四谷保健センター集会室 尾形専務理事
- (13)JOC総務本部会 3月15日(木)  
於：ナショナルトレーニングセンター 尾形専務理事
- (14)スポーツ安全協会評議員会  
3月16日(金) 於：霞が関ビル35階 尾形専務理事
- (15)IFSC総会 3月14日(水)～21日(火)  
於：インスブルック 八木原会長、平山副会長、合田・小日向常務理事、原田事務局長
- (16)UIAA理事会 3月21日(水)～28日(水)  
於：カトマンズ 八木原会長、小野寺常務理事
- (17)日体協平成29年度第2回臨時評議員会  
3月23日(金) 於：グランドプリンスホテル高輪 尾形専務理事
- (18)第20回秩父宮記念スポーツ医・科学賞表彰式・受賞祝賀会  
3月23日(金) 於：グランドプリンスホテル高輪 尾形専務理事
- (19)スポーツクライミングユース日本選手権リード競技大会 3月24日(土)～26日(月)  
於：印西市松山下公園総合体育館 亀山副会長、尾形専務理事、村岡・合田常務理事
- (20)国内競技団体医事担当者会議  
3月27日(火) 10時30分～12時  
於：オリパラ組織委員会会議室 虎ノ門六角SC医科学委員長
- (21)全国競技委員長連絡会議(仮称)  
4月1日(日) 於：岸記念体育会館 平山副会長他、SC理事、委員長
- (22)FISE Hiroshima 2018  
4月5日(木)～8日(日) 於：旧広島市民球場跡 八木原会長、平山副会長、小日向常務理事(JUSC副会長)

## 寄贈図書

雑誌	(株)山と溪谷	「山と溪谷」No.997
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.851
会報	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第610号
	(公財)京都府体育協会	「京都府 体協時報」第127号
	(公社)日本山岳会	「山」No.874
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.480
	国立登山研修所	「登山研修」VOL.33-2018
	中華民国健行登山會	「中華登山」184
	全日本ボウリング協会	「JBCnews」第557号
	(公社)日本山岳会	「木の目 草の芽」第132号
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.343
	(公社)国土緑化推進機構	「ぐりーんもあ」VOL.81
	(一社)大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.216
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.519
	愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第427号
	やまびこ山想会	「やまびこ」第176号
	H T A - J	「HAT-J NEWS」No.109
	群馬県山岳連盟	「山岳ぐんま」第112号
	(一財)防火・防災協会	「地域防災」No.19
	(公社)日本山岳会山梨支部	「甲斐山岳」第10号
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.95
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第451号
F E E C	「V E R T E X」277	
(公社)日本山岳会	「山」No.875	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.701	

## 編集後記

第12回山岳スキー競技日本選手権大会が悪天の中4月14～15日に開催された。本紙によると事故や怪我もなく無事に実施出来たことは運営スタッフの対応力によるものと思う。

この競技は2020年スイスのローザンヌで開催される第3回冬季ユース五輪の追加種目に選ばれた。今後、本協会は競技の普及、選手の発掘・育成、大会運営など競技力向上に取り組んでいく必要がある。

(広報担当 水島彰治)

### 一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184  
神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
☎042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

### NPO法人 北丹沢山岳センター

神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会  
事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 道志村トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会
- 上野原秋山トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

### 登山月報 第590号

定価 110円(送料別)  
予約年間 1,300円(送料共)  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 平成30年5月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
岸記念体育会館内  
公益社団法人  
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395

山岳  
雑誌

# 岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

岳人

2018  
6  
June  
No. 652

パワースポット 三十三山



6月号  
発売中

【特集】パワースポット 三十三山

★モンベルのウェブサイト  
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊  
~~9,780円~~ (+税) → 8,965円 (+税)

1年間で815円  
1冊分無料

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人フォールディング  
スプーン

フィールドで活躍する  
スプーン&フォーク。  
岳人オリジナル  
ケース付き。

※色はお選び  
いただけません



▲折りたたみ時

さらに

はじめて  
お申し込みの方に



岳人ピンバッジ

ご継続の方に



オリジナルBOX

年間購読  
お申し込み方法

◎ウェブサイトで

<http://www.gakujin.jp/>

◎全国のモンベルストアで

<http://store.montbell.jp/>

お問い合わせ  
(モンベルポスト)

0120-982-682 TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。  
あしたを作る。  
三井住友海上

損害保険と聞いて、  
なにを思い浮かべますか?

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を繰り返しながら前へ歩み続けます。

三井住友海上  
時空保険  
探査部

Space-time Insurance  
Exploration Department

人類にとっての  
損害保険の  
必要性を調査。

社員証を  
かざせば  
タイムワープ。

時空を超える  
ゲート。

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

# あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

**日山協 山岳共済会** 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396

FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
公益社団法人日本山岳・スポーツライミング協会  
携帯サイト ([www.jma-sangaku.or.jp/mobile/](http://www.jma-sangaku.or.jp/mobile/))



WEBからもお申込みいただけます ([www.sangakukyousai.com](http://www.sangakukyousai.com))